

東海道の「ちようどまん中」にある宿場町「どまん中ふくろい」

袋井市長（静岡県）

大場規之



はじめに

袋井市は、静岡県西部に位置し、東海道新幹線・東海道本線・東名高速道路・国道1号・国道150号などの主要交通路が横断する、交通の要衝として知られている。

豊かに広がる田園地帯と美しい茶畑、さらには太田川や原野谷川、南には遠州灘と、自然環境にも恵まれている。太平洋に面した温暖多雨の太平洋岸式気候で、夏は南よりの風のため、高温多湿となり、冬はこの地域独特の「遠州の空っ風」と呼ばれる寒風が吹き、低温で乾燥した晴れの日が多く続く。また、全国の中でも日照時間が長い地域であり、年平均気温も16℃～17℃と、一年を通じて快適

な環境であるため、温暖な気候に恵まれた県内有数の農業生産地域となり、温室メロン、茶、米などの生産が盛んである。

東海道どまん中「袋井宿」

袋井はかつて、江戸と京都とを結ぶ東海道と、北の森町を経て秋葉山に至る秋葉街道、南東の横須賀城下への横須賀街道が分岐する要衝のまちとして栄えてきた。

江戸時代には、東海道五十三次の一つ「袋井宿」があり、江戸日本橋から数えても、京都三条大橋から数えてもちようど27番目の中間点となることから、東海道五十三次の「どまん中」の宿場として、街道を往来する旅人の宿泊や休息、人馬による輸送を扱っていたとされている。「袋井宿」は、東海道に

一斉に宿駅を設置した慶長6

（1601）年から15年後の元和2

（1616）年に開設され、本陣3

軒、旅籠50軒規模の宿場であり、

東西文化の中間点として、街道を

行き交う人々にぎわい、また、

尊永寺（法多山）や油山寺、可睡齋

への参詣路の出発点としても、多

くの人々に利用されてきた。

その後、明治時代には東海道線

の袋井駅に加え、南北の街道沿いに

私鉄が開通し、乗り換えの駅とし

ても多くの人々に利用されてきた。

今も残る「家康伝説」

市内には、奈良時代から続く古刹が多く、現在も、尊永寺（法多山）や油山寺、可睡齋には多くの参詣客が訪れる。特に、曹洞宗の古刹として知られている可睡齋

は、寺名なども家康に由来している。可睡齋の11代住職は、家康を戦乱から救ったことがあり、後に浜松城主となった家康に城に招かれたその席上で居眠りを始めた。家康は和尚の安らかな親愛の心を悟り、「和尚、睡る可し（ねむるべし）」と申されたことから「可睡」と呼ばれることとなったとされている。



家康伝説が多く残る「可睡齋」



歌川広重の浮世絵をモチーフにした「東海道どまん中茶屋」

年記念祭」を実施
井宿開設四〇〇
の協働により「袋
念の年となるこ
とから、市民と
400年目の記
設されてから
は、袋井宿が開
（2016）年に
ている。平成28



徳川家康公が座った腰掛石

天守が建てられたと伝えられて
いる。

「どまん中ふくろい」の 全国発信

東海道のどまん中の宿場である
地域特性を生かし、「どまん
ふくろい」をキーワードにさま
ざまなまちづくり事業を展開し
ている。平成28

る。また、東海道の
西の入り口に当たる
木原地区の許禰神社
には、関ヶ原の戦い
の勝利祈願の際に腰
を掛けた石「徳川家
康公腰掛石」が残り、
ほかにも、同地区出
身の大工の棟梁「木
原吉次」の手によっ
て、江戸城の慶長度

するなど、「どまん中ふくろい」を
全国に発信している。また、袋井
宿の東の入り口に位置する「東海
道どまん中茶屋」は、歌川広重の
浮世絵「東海道五十三次袋井出
茶屋ノ図」をモチーフに設置した
茶屋であり、「どまん中ふくろい」
のシンボリックな施設となる。その
昔、袋井宿で旅人の疲れを癒やし
ていたように、現在も、東海道や
袋井宿を訪れる市内外の方々を湯
茶などでもてなしており、気軽に
立ち寄れる憩いの場、ふれあいの
場として親しまれ、観光地として
も人気が高い。

「松並木」を生かした まちづくり

かつて、東海道には多くの松並
木が存在していた。本市にも東海
道の東の入り口に当たる旧久努村
地内に、「久努の松並木」として全
長2760mにわたり、約200
本の松が今も残っている。これら
の松並木を、地域の歴史的遺産と
して持続的に保全していくため
に、平成29年に「久努の松並木愛
護会」が結成され、地元地域住
民や事業所などを中心に、行政と
一体となったまちづくりを展開し

ている。松並木の清掃活動をはじ
め、松の枝打ち、害虫駆除などの
ほか、全ての松のデータベース化
や地域の子どもたちへの「久努の
松並木」の歴史教育など、次世代
につながる活動に努めている。
これらの活動が認められ、令和
元年度には、美しいしずおか景
観推進協議会主催の第12回静岡
県景観賞の最優秀賞を「久努の松
並木」が受賞することができた。



400年以上現存している「久努の松並木」

今後は、この「松並木」を生かした
まちづくりをモデルケースとして、
文化財の保存と活用を生かしたま
ちづくりの推進を目指していく。

東海道・遠江路

一口メモ

東海道は、中央にある遠江国が
東西をつなぐかたちで、江戸から
京までの126里余（約500km）
が53の宿場町で結ばれた日本の大
動脈である。

東海道・遠
江路は約17里
半の道のり
（約70km）で、
大井川を西に
渡った金谷か
ら始まり、掛
川、袋井など

の宿を経て、白須賀宿までの9宿
が遠江国であった。

遠江国は、「近淡海」と呼ばれた
琵琶湖に対し、浜名湖が「遠淡海」
と呼ばれたことに由来するとさ
れる。

袋井は、元和2年に掛川と見付
宿約4里（約16km）の間に設置さ
れた宿。まち並みは5町余（約
600m）と短かったが「遠州三
山」への参詣客にぎわいを生み、
天保14（1843）年には約50軒の
旅籠を数える宿場町となった。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」

13 市政 JUNE 2022